

全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年7月30日

予報期間：8月1日～8月31日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	40:40:20 40:40:20	20:40:40 20:40:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	40:40:20 30:40:30	20:40:40 30:40:30	
西日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	40:40:20 30:40:30	20:40:40 30:40:30	
沖縄・奄美		20:30:50	20:30:50	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:40:50	10:30:60	10:40:50
東日本	10:20:70	10:30:60	10:40:50
西日本	10:10:80	10:20:70	10:40:50
沖縄・奄美	20:30:50	20:40:40	20:40:40

全般1か月予報のポイント

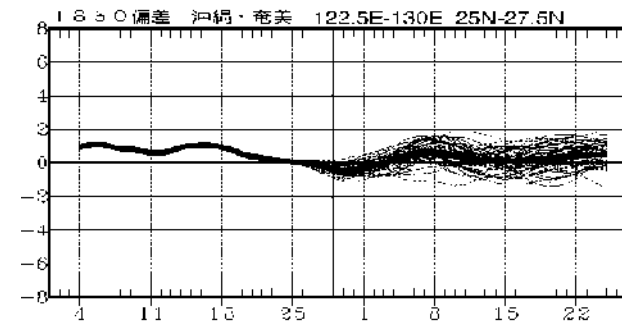
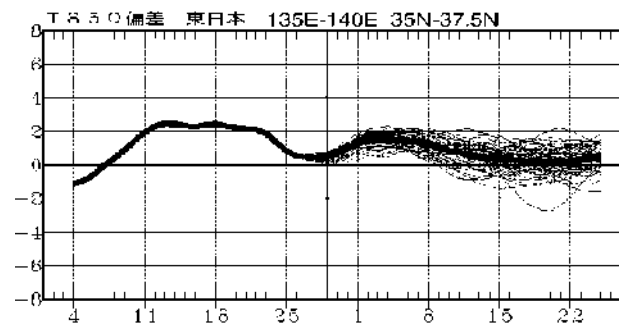
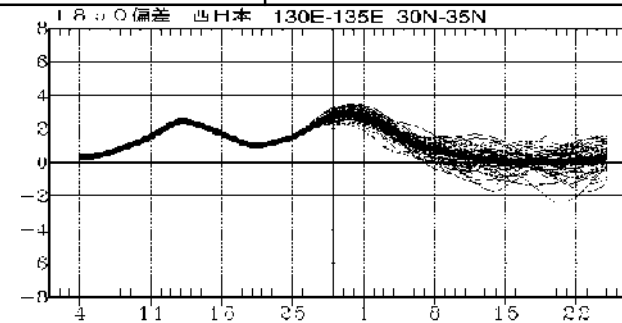
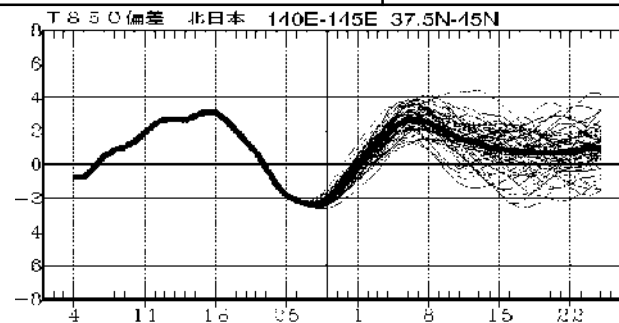
- ・全国的に暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・北日本と東・西日本日本海側では、期間の前半は高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、期間の前半は台風や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

沖縄・奄美では、7月21日発表の3か月予報での8月の予報に比べ、台風や湿った空気の影響を受けやすい見通しに変わったため、多雨の可能性が大きくなりました。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(8/1～8/7)	2週目(8/8～8/14)	3～4週目(8/15～8/28)
想定される天候(気温)	全国で高温で、東・西日本はかなり高くなる見込み。	北・東・西日本は高温で、かなり高くなる見込み。沖縄・奄美は高温傾向。	北・東・西日本は高温、沖縄・奄美は高温傾向。
根拠	北日本は期間のはじめに冷涼な空気の影響を受けやすいが、その後は西日本を中心に暖かい空気に覆われやすい(P12,P13参照)。	西日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。ただし、沖縄・奄美を中心に湿った空気の影響を受けやすいため、高温の確率をやや小さく考える(P12,P13参照)。	北・東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。ただし、沖縄・奄美は台風通過後の海面水温低下を考慮して、高温の確率をやや小さく考える(P12,P13参照)。

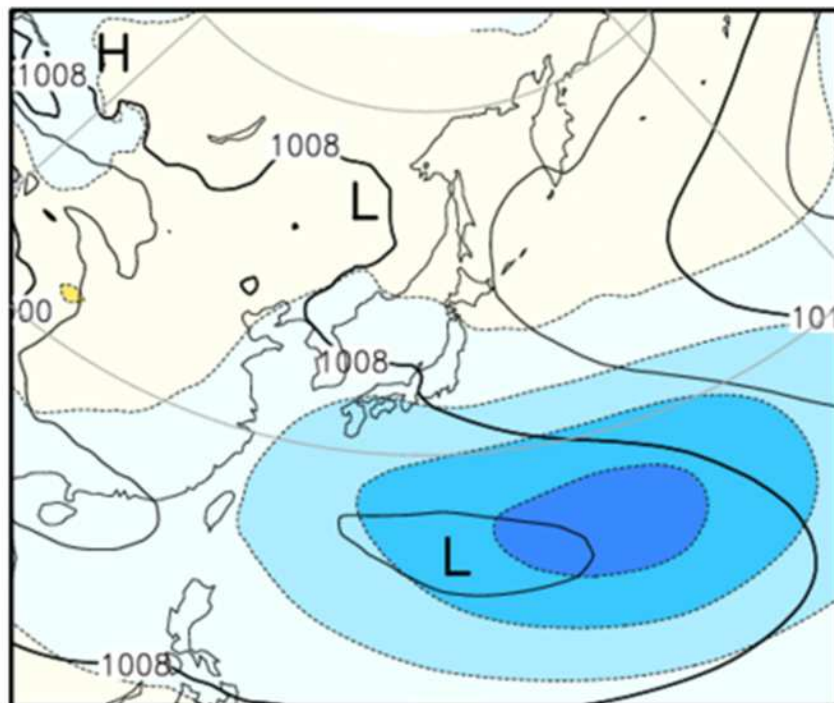
850hPa気温 偏差時系列



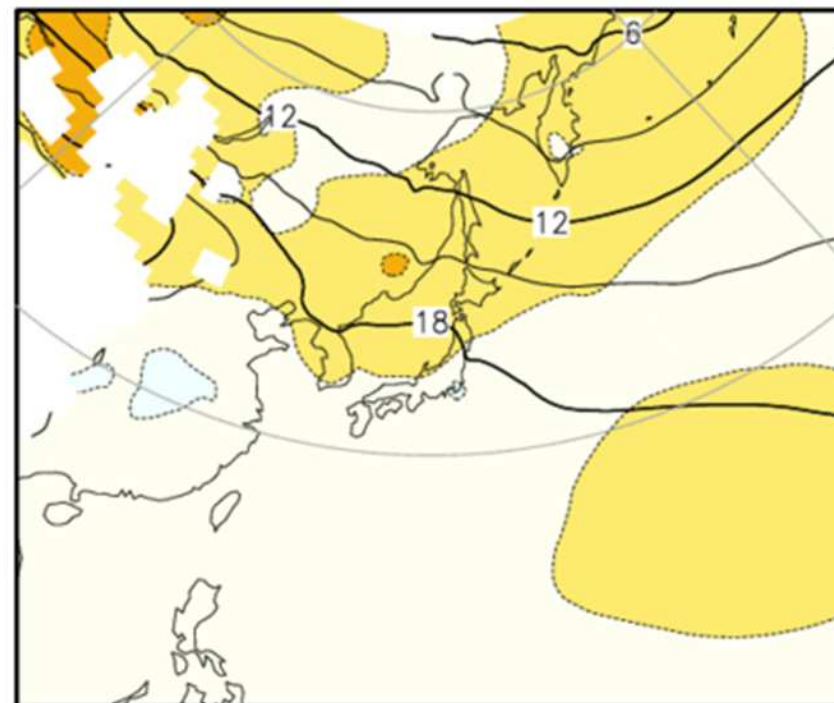
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(8/1～8/7)	2週目(8/8～8/14)	3～4週目(8/15～8/28)
想定される 天候 (天気)	北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 東・西日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東・西日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	北日本と東・西日本日本海側は高気圧に覆われやすいため、少雨傾向多照傾向。 沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすいため、多雨傾向やや寡照(P10-P13参照)。	北・東・西日本日本海側は高気圧に覆われやすいため、やや少雨多照傾向。 沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすいため、多雨寡照傾向(P10-P13参照)。	おおむね平年と同様の天候(P10-P13参照)。

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

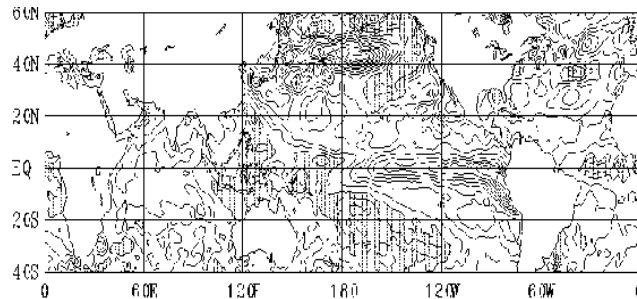


1か月平均の海面気圧(左図)は、日本の南に低気圧が予測されていて、期間の前半は沖縄・奄美を中心に台風や湿った空気の影響を受けやすいでしょう。一方、北海道付近は気圧が高く、期間の前半は北日本や東・西日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすいでしょう。

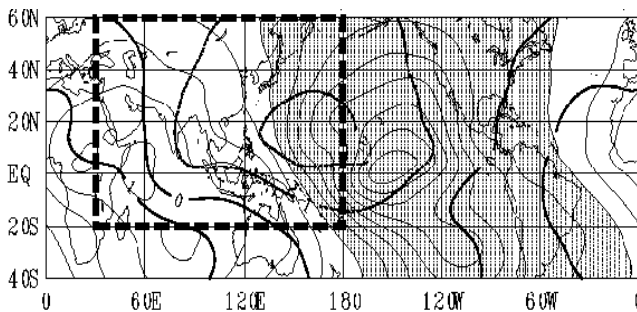
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は北日本を中心に平年より高く、全国的に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

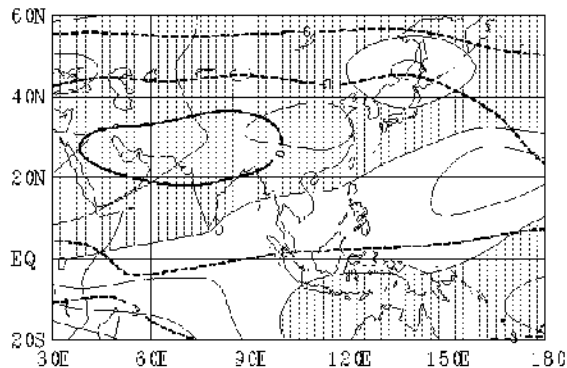
SST偏差



200hPa速度ポテンシャル



200hPa流線関数



SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部で正偏差、西部で負偏差。インド洋では西部を中心に正偏差。

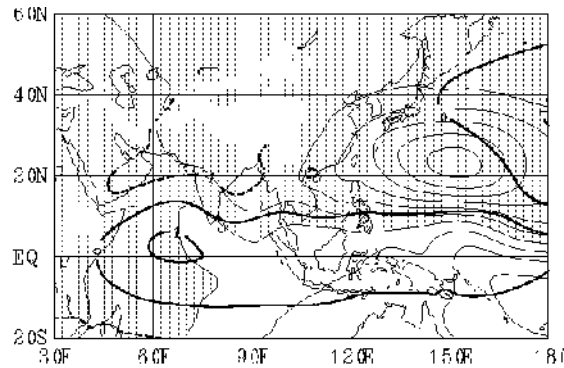
200hPa速度ポテンシャルは、熱帯の対流活動に対応して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インド洋西部を中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。また、華中付近で低気圧性循環偏差、沿海州付近で高気圧性循環偏差。

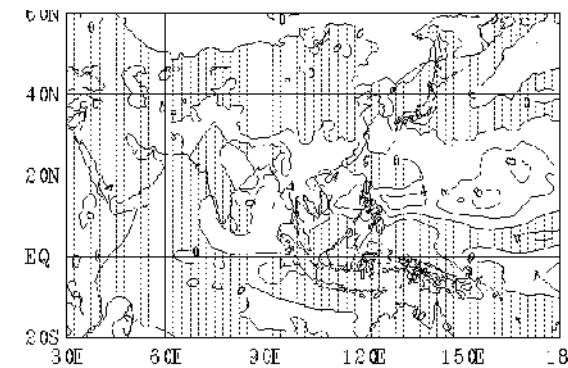
850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日本の南東を中心に低気圧性循環偏差。

降水量は、日付変更線の西から南シナ海にかけて多雨偏差。インドネシア付近で少雨偏差。

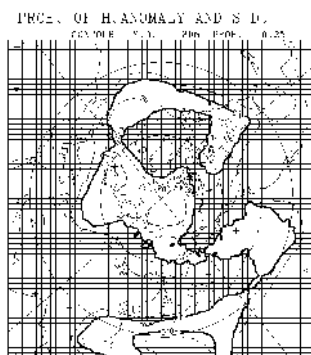
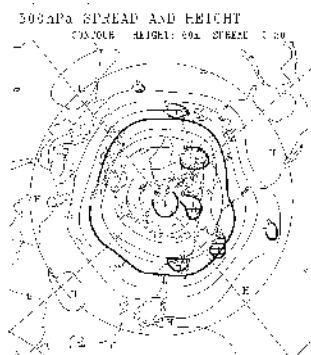
850hPa流線関数



降水量偏差

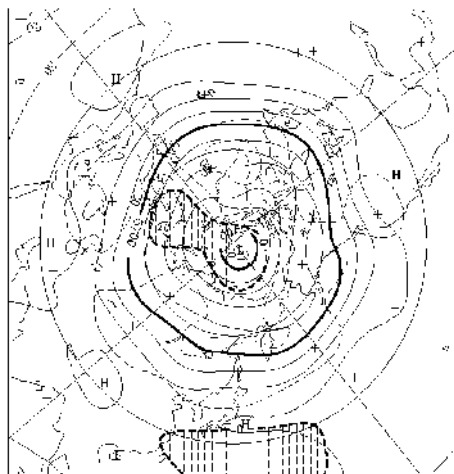


予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

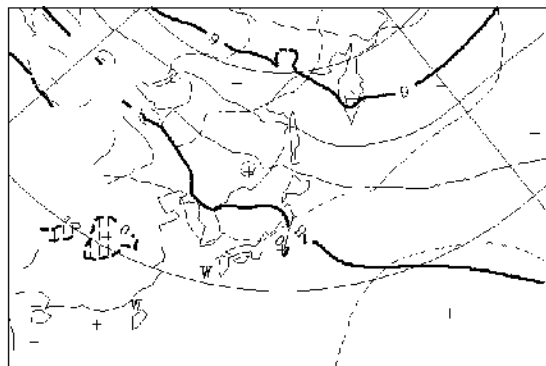


500hPa高度は、北日本を中心に正偏差、日本の南は負偏差。カムチャツカ半島付近はスプレッドが大きい。
850hPa気温は、日本付近は北日本を中心に正偏差。
海面気圧は、日本の南に低気圧が予測されていて、期間の前半は沖縄・奄美を中心に台風や湿った空気の影響を受けやすい。一方、北海道付近は正偏差で、期間の前半は北日本や東・西日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすい。

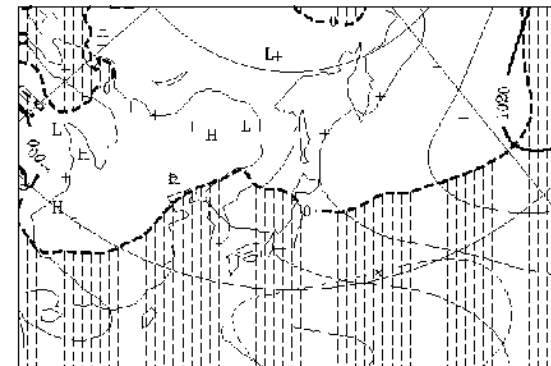
500hPa高度



850hPa気温



海面気圧



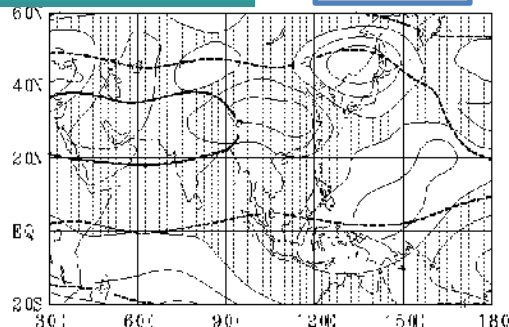
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、期間を通して日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。華中付近で低気圧性循環偏差。1、2週目は亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られ、沿海州付近で高気圧性循環偏差が強まるが、3～4週目は亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られなくなり、高気圧性循環偏差はオホーツク海付近に移動する。

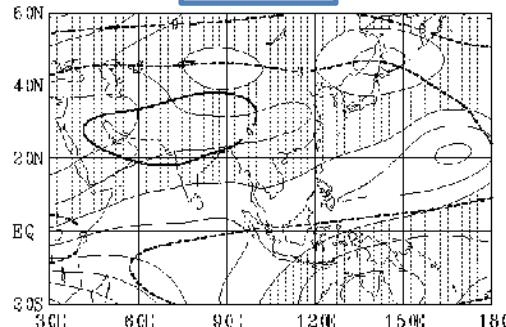
850hPa流線関数は、期間を通して日本の南東を中心に低気圧性循環偏差。

200hPa流線関数

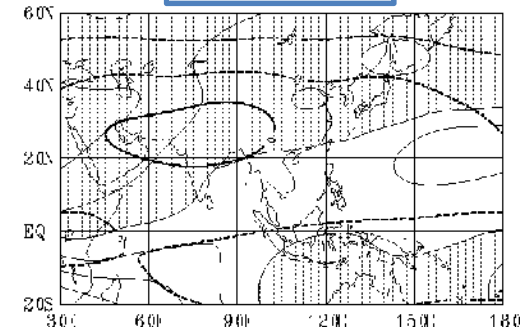
1週目



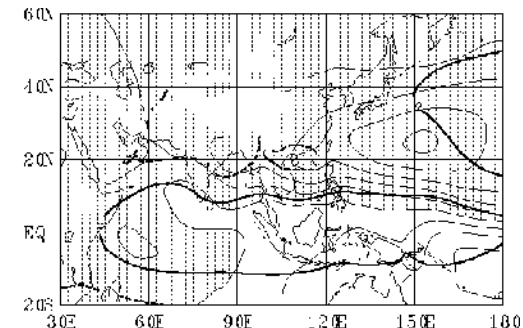
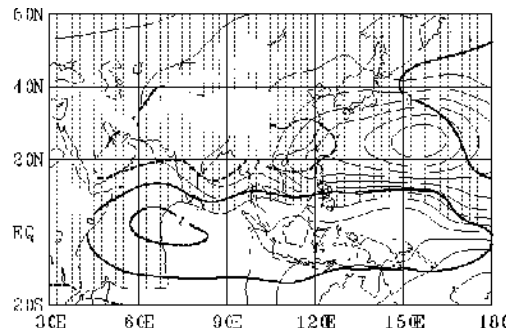
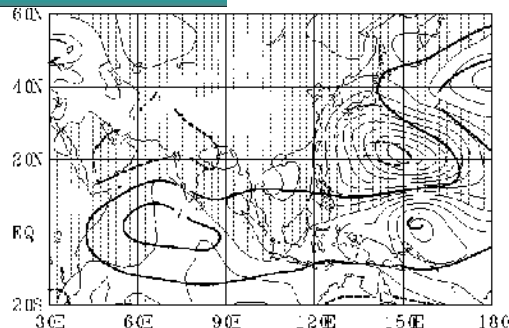
2週目



3～4週目



850hPa流線関数



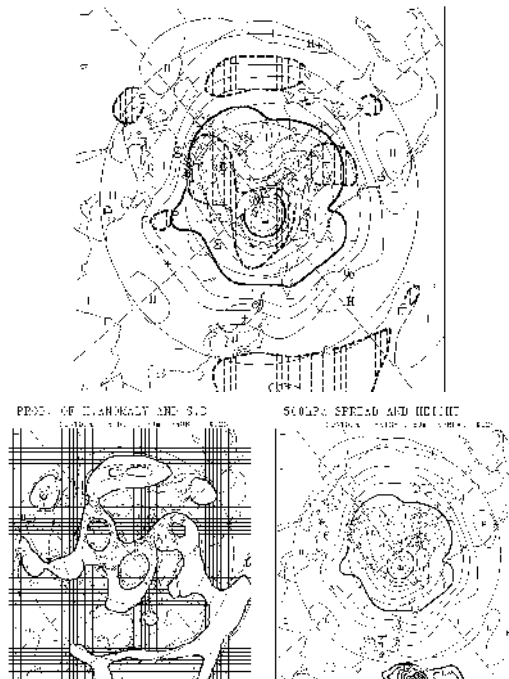
予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

500hPa高度は、期間を通して日本の南で負偏差。1週目は沿海州を中心に正偏差、2週目はオホーツク海を中心に正偏差。3～4週目もオホーツク海を中心に正偏差だが、平年との偏りは小さい。

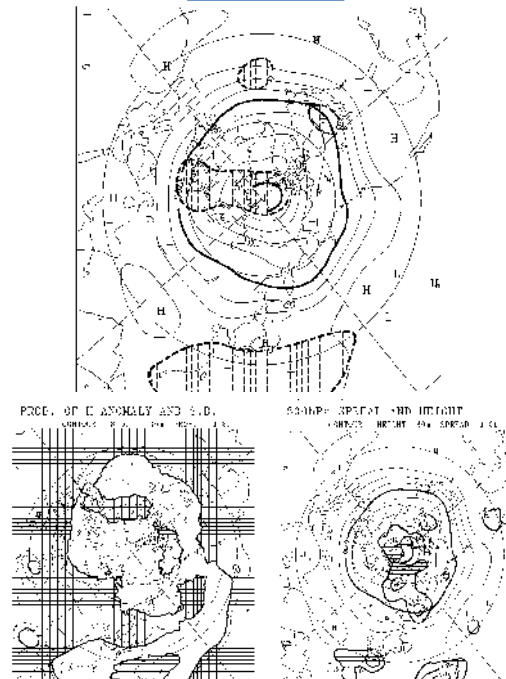
なお、2週目は東シナ海とカムチャツカ半島付近、3～4週目はオホーツク海からベーリング海にかけてと華北付近でスプレッドが大きく、亜熱帯ジェット気流沿いの波列と熱帯じょう乱の予測は不確実性が高い。

500hPa高度

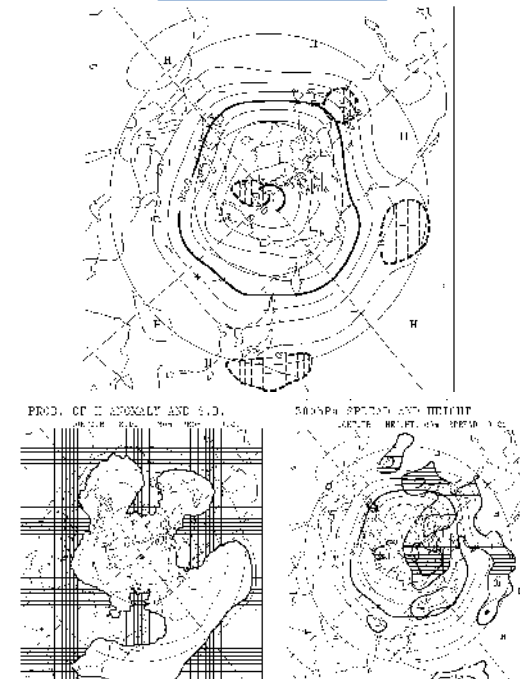
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

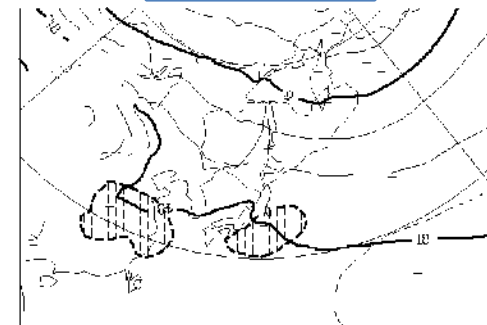
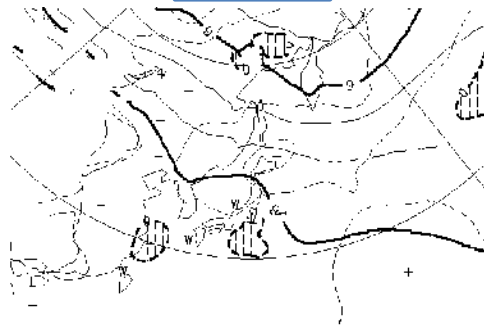
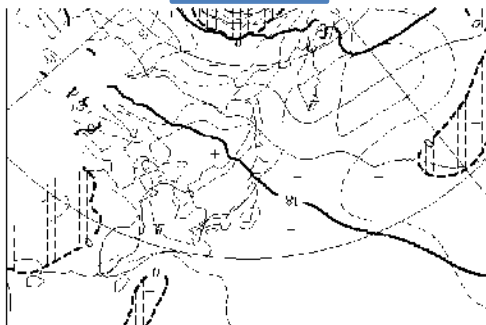
850hPa気温は、期間を通して北日本を中心に正偏差。また、期間を通して東シナ海に、2週目以降は日本の南に負偏差が見られるが、平年との隔たりは小さい。海面気圧は、1、2週目は日本の南は負偏差で、沖縄・奄美を中心に台風や湿った空気の影響を受けやすい。一方、北日本や東・西日本日本海側を中心に相対的に気圧が高く、高気圧に覆われやすい。3～4週目は千島近海を中心に正偏差、本州以南は負偏差。太平洋高気圧が弱く、日本付近は湿った空気の影響を受ける可能性があるが、不確実性が大きいいため、おおむね平年と同様の天候で考える。

1週目

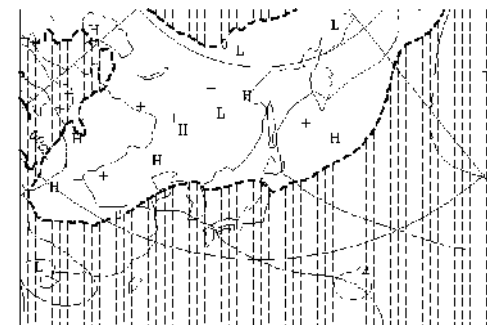
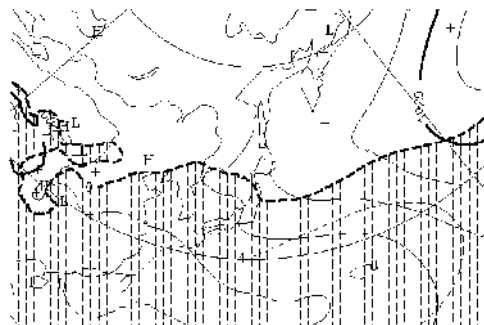
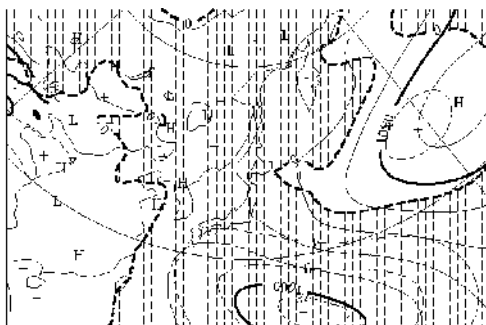
2週目

3～4週目

850hPa気温



海面気圧



気象庁
Japan Meteorological Agency

